

令和7年度研修 評価

研修名	訪問看護師育成サポート研修 全体研修② 「状態変化時のシミュレーション演習」				
領 域	訪問看護	会場	新潟県青陵大学	受講料	会 員：2,200 円 非会員：6,600 円
対 象	募集数 各回 12 名 応募数 第 1 回 6 名 第 2 回 6 名 第 3 回 8 名 第 4 回 5 名 合計 25 名 受講数 第 1 回 6 名 第 2 回 6 名 第 3 回 8 名 第 4 回 5 人 合計 25 名 会員数 会員 14 名 非会員数 11 人名 修了者 25 名				
日 時	令和 8 年 2 月 9 日（月） 2 月 12 日（木） 3 月 3 日（火） 3 月 4 日（水） 9：45～15：30				
ねらい（目標）	アセスメントに基づき、適切な情報共有のための言語化ができる 1) フィジカルアセスメントの基本を理解できる 2) 状態変化時の優先順位に基づいたアセスメントができる 3) 状態変化時の適切な対応を考えることができる 4) 対象者の状態について考えたことを言語化できる				
講 師	坪川トモ子 新潟青陵大学看護学部看護学科 学部長・教授 清水 理恵 同上 准教授 浅野 仁美 同上 助教				
内容・方法	第 1・3 回：経験の短い看護職対象 第 2 回：指導的立場にある看護職等対象 ○講義 1 時間 15 分 ○情報交換 30 分 ○演習 2 時間 30 分（シミュレーション機器使用） ○情報交換 30 分				
結 果	○受講割合 52.1% 【達成・未達成】 ○アンケート結果 ・研修目標（知識・技術）の習得度 100% 【達成・未達成】 ・自己課題の達成度または研修目標の修得度 100% 【達成・未達成】 ○受講者の意見 ・情報交換でき、他の訪問看護ステーションの雰囲気等も知ることでよかった。文面におこすことで、自分の頭の中を整理でき、情報収集の傾向を知ることができた。 ・実際に自分の考えや報告を振り返って、どう修正していくべきか分かり良かった。 ・SBAR を初めて知った。普段の訪問で少しずつ訓練していこうと思う。少人数だったため和気あいあいと話せ、また先生達とも色々話ができて良かった。 ・少人数で情報交換でき、いろいろな人と話すことができてよかった。 ・VR の操作、シミュレーションができよかった。いろいろな職場があり情報交換ができてよかった。 ・若い職員、新人を育てていく立場にあることを今日の研修で認識した。 ・VR でのシミュレーションは、操作が慣れない分、もたついてしまった。使いこなせなくて残念だった。				

	・情報交換はとりとめもなくなってしまったので、テーマが事前にわかると良かった ・打診についても、深く学びたかった。
評 価・総 括	○目標達成の評価：【研修会の目標は達成した・達成しなかった】 ・訪問看護経験の長短にかかわらず全ての回で、研修目的を達成でき、業務に直ぐに活用できるとの回答であり、達成。 ○総括 ・受講者の満足度や目標達成度は100%だが、通算4回の受講率は52.1%に留まった。令和5年度および6年度の受講者に「受講後の業務への活用度」を調査した結果を、今年度の案内に掲載したが、受講率向上に繋がらなかった。周知方法について更なる工夫が必要。 ・各回とも演習を2グループで実施。少人数なりにお互い活発にコミュニケーションを取り、意見交換や情報収集ができています。 ・訪問看護師の不安の一つに、一人で訪問し、判断しなければならないことが挙げられる。この研修はその不安の軽減の一助になると考え、継続が必要。
課 題	・効果的な周知。
担当者	訪問看護推進課職員